

北海道農業法人協会酪農部会設立趣意書

現在、我が国の社会構造の変化は顕著であり、農業においてはグローバル化の潮流の中にあつて、個々の農業経営者は、世界的に情報を収集し、今後の方向性を考える時代となっております。

国内の牛乳乳製品の需要は、2000年をピークに減少している一方で、乳製品の輸入量は傾向的に増大しており、国内の生乳生産量は減少しております。そのような中、北海道の生乳生産量は全国の過半を占め、その割合は将来的にも増加していくことが予想されます。その中でも酪農法人は、地域の中核として農業経営を行い、生産ならびに地域雇用の実現を通じて、地域社会の発展、農地の保全に貢献しており、今後もその果たす役割は増々大きくなっていくものと思われまふ。

1966年に加工原料乳生産者補給金等暫定措置法が施行され、半世紀が経とうとしていまふ。その間、酪農戸数は20分の1に減少し、一経営体あたりの生産乳量が格段に増加したように、酪農経営の状況は大きく変わりました。内閣府の規制改革会議等では、生乳の生産・流通制度に関して抜本的な見直しを求める意見があり、関係各所で議論が加速していまふ。

このように酪農経営における基盤となる制度が見直しされる時代にあつて、酪農生産者の中心的な役割を担う酪農法人は、業界の発展、地域の発展の為にも責任ある意見を発信すべきであると考えまふ。そこで、私たちはここに「北海道農業法人協会酪農部会」を結成することに致しました。

この会は、北海道農業法人協会の部会として、個々の思想・信条を尊重しながら酪農法人経営者および意欲的な経営に取り組む酪農経営者が自ら組織し、主体的な活動を以て、酪農経営に関する情報交換、意見交換を通じ、酪農経営環境改善に対しての啓発・提言を行うことで、北海道における酪農業の振興と酪農経営の改善を図ることを目的とするものであります。

関係各位のご賛同とご協力、ご支援を改めてご依頼するとともに、ここに「北海道農業法人協会酪農部会」の設立を發起する次第です。

2016年7月7日

北海道農業法人協会酪農部会設立發起人会

發起人

有限会社 ドリームヒル

有限会社 鶴翔

有限会社 社名渕みどり牧場